

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	<p>今年度は新カリキュラム初年度生が卒業を迎えた。新カリキュラムにおいても教育理念・目的・目標・卒業生像を具体的に設定し、シラバス、パンフレット、ホームページに明示を継続した。また、各教室に掲示することで、学生の学習の指針となっている。</p> <p>教育目標については、地域社会のニーズを反映させた実現可能な内容であり、教育理念・目標・卒業生像と一貫性がある。今後も教育目標達成に向けて、教育に関わる全ての関係者が共通認識を図りながら教育活動に取り組んでいく。</p>
II. 教育課程	<p>今年度より全学年新カリキュラムに完全移行となった。本校の特色である地域理解のための科目が盛り込まれており、学生と社会のニーズを考慮しながら取り組むことができた。今年度、旧カリキュラムで単位修得に向け取り組んでいる学生に対してもトラブルなく対応できたため、今後も新・旧カリキュラム共に学生に不利益が生じないよう教育計画を整え、単位修得に向け取り組んでいく。教育課程評価においても、単位認定基準や評価体系も整えられており、個人情報管理も徹底されている。倫理規定が明確になっているため、履修規定や単位認定基準に基づき、卒業判定、単位認定会議により評価がなされている。</p> <p>教員の教育・研鑽システムにおいては、教員不足は続いているが、業務や授業、実習指導において業務調整を行い、教職員全体の協働体制は維持できている。今後も協働体制を常に意識しながら自己研鑽システムを整えていく。さらに次年度はDX化始動に向け、事務部門とさらに連携を図り取り組んでいく。</p> <p>学生の看護実践体験の保障においては、臨地実習指導者会議を行い、実習要項の説明と、協力を依頼している。一部の施設では、指導者がスタッフメンバー兼学生指導者となっている状況がみられたが、学校・施設の双方で協働体制を図ることで、学習環境に大きな問題は生じることなく実施することができた。学生の学びを保障するために学校・施設の双方で協働体制を図りながら、今後も連携、調整していく。また、地域医療構想を踏まえた「松阪市民病院のあり方検討委員会」の内容も見据え、実習施設の確保に努めていく必要がある。</p>
III. 教授・学習・評価過程	<p>全学年新カリキュラム完全移行後も、授業内容と教育課程との一貫性、看護学としての妥当性、授業内容間の関連と発展を意識しながら取り組むことができた。今年度の新設科目において、リハビリテーション専門学校との協同学習を例年同様実施した。3年次最終科目として、他職種学校との協同学習を行うことにより、保健・医療・福祉チームの中で働く看護師の役割が認識され、多職種連携・協働への理解の一助となった。また、昨年度の課題をふまえ、2年生前期科目と後期科目の入れ替えを試みたが、既習知識をふまえ段階的に学ぶことで学習の質の向上につながり、効果的な配列となった。さらに、学生が能動的に学べるよう低学年より様々な授業形態を取り入れたことで、高学年になるほど発展的に考える力を身につけられるようにもなった。今年度は、卒業前演習において、松看会より卒業生が模擬患者として授業に参加するという教育方法を試みた。臨場感があり、臨床の視点から貴重な助言を受けることにより学生の意識も高まり、効果的な演習につながった。今後も継続し、学生の学びの質を深めていく。</p> <p>目標達成の評価とフィードバックにおいては、単位認定会議が開催され、単位認定のための評価基準と方法を明示し学生に公表しているため、公平性が担保されている。また、科目ごとに授業評価を実施し、課題をふまえ次回に活かすことができているため、この体制を維持していく。</p>

	<p>今年度も教員、外部講師の双方が、シラバスの提示や学習への指導において養成所全体として一貫性をもって取り組むことが出来た。昨年度の学生の自己学習不足の課題をふまえ、今年度は学生が主体的に自己学習に取り組めるよう機会教育を実施した。その結果、再試験受験者数の減少、実習中の自己学習時間の上昇にもつながった。卒業前に実施される学校生活満足度調査においてすべての学生が、「シラバスと実際の教育内容は概ね一致している」「個別指導、学習相談など学生をサポートする体制が整っている」と回答しており、教育内容への満足度も高いことから学習への動機づけの一助となっていると評価できる。さらに、今年度は、第114回看護師国家試験に全員合格することができた。毎年本番を見据えて秋季から冬季にかけて数回臨んでいる「看護師国家試験全国業者模擬試験」においても、例年通り全国トップ5以内という好成績を収めていることから裏付けされている。次年度も学生の効果的な学びを担保できるよう努めていく。</p>
<p>IV. 経営・管理過程</p>	<p>設置者の意思・指針において、教育理念・教育目的、教育課程経営、教育評価、管理運営等による考え方の明示がなされ、所属長会議、運営会議も計画通りに行われた。その決定事項は教職員に周知され、管理者と設置者の意思疎通も図れたことで、体制が維持できている。今年度より実習指導教員が採用となり、教職員それぞれが役割を遂行することができた。教職員の資質の向上においても、三重県看護学校校長会主催の研修会やオンデマンドによる研修会に全教職員が参加し、自己研鑽に努めた。次年度も様々な研修会への参加とさらなる業務の効率化に向け取り組んでいく。</p> <p>財政基盤においては、今年度入学試験の受験者が昨年度より10名ほど増加し、入学者数も44名となり、学校として財政確保ができています。三重県からの光熱費に対する物価高騰対策支援補助金の交付や、令和7年度以降は三重県看護師等養成所運営費補助金の加算措置の見直し（これまでの退学者率に加え県内就業率による加算）がなされ増額が見込まれている。今後も教職員、学生が節約の意識を高めながらも、学習・教育の質の維持・向上に努めていく。また、次年度からのタブレット端末の導入に向け、学内のWi-Fiの整備や教職員用のタブレットの購入等を計画的に実施できた。DX化始動に向け、プロジェクト委員会を立ち上げ、スムーズな対応ができるよう情報収集と教職員間での情報共有を実施する。</p> <p>学生生活の支援として、学修継続のための支援制度（松阪地区医療機関からの奨学金、日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援制度、厚生労働省教育訓練制度）は多角的に整えられ、今年度も体制を維持できた。次年度より多子世帯への給付型奨学金の制度が見直される。在校生も対象になる場合があるため、周知を行い、学生の学修継続ができるよう支援を継続する。</p> <p>年間を通して、教育・学習活動に関する情報提供については必要時、保護者面談・連絡し連携することができた。また、高校生のガイダンス、地域活動やイベントへの参加も積極的に行っている。Instagramのフォロワー数も上昇しており、看護師養成所としての存在をアピールできているため次年度も継続する。</p> <p>年間計画・短期計画においても業務毎で立案・評価ができています。評価した内容は次年度に引き継ぐことができています。将来構想について養成所としての意見をまとめる機会を設けることができなかつたため、次年度への課題とする。</p> <p>自己点検・自己評価の体制は維持できた。今年度の評価や課題を次年度のカリキュラム運営、授業実践に活かせるよう各々の教職員が意識する。</p>
<p>V. 入学</p>	<p>入学選抜についての考え方は、学校運営に関する諸規定、看護学校養成所案内募集要項に示されている。例年通り広報活動を行い、入試を4回施行した。指定校推薦枠の増加、指定数の変更や評価値を見直し対応することができた。今年度は、社会人対象のオープンキャンパスを実施し、社会人学生の確保につなげるこ</p>

	<p>ともできた。検討を重ねた結果、次年度の入試は4回から3回に減少される。今後も入学の選抜方法の検証は必要である。</p>
<p>VI. 卒業・就業・進学</p>	<p>今年度も卒業後調査を通して、卒業生の状況、問題を明確化している。22回生の卒業後調査では、「主体性が身についている」の項目が昨年度より低い状況であったが、その他の項目においては80%以上の卒業生が身につけていた。本校の課題とする社会人基礎力に対する機会教育において、各々の学生が意識して授業・演習・実習に臨んだ結果であると考え。今後も学校生活の中で学生が社会人基礎力を意識して臨むように働きかけていく。卒業後調査を依頼するにあたり、各病院看護部長と教育師長にも協力を求め、100%の回収ができるような工夫が必要である。卒業後の就業状況については、教員が実習先で卒業生から状況を聞いたり、相談に応じることもある。引き続き、卒業生、就職先病院との情報交換を密にしていく。</p> <p>卒業生803名の就業調査を松阪地区管内337施設で調査したところ、227施設から回答があり、38施設に341名(42.5%)が就労していることが分かった。341名の内訳として、病院に288名(84.5%)、クリニックに15名(4.4%)、訪問看護ステーションに12名(3.5%)、介護老人保健施設に18名(5.3%)、行政関係者他に8名(2.3%)が就労しており、地域に貢献しているという結果が得られた。令和6年度卒業生も98%が松阪地区管内へ就職している。引き続き地域貢献に向け取り組んでいく。</p>
<p>VII. 地域社会・国際交流</p>	<p>本校では、新カリキュラムより1年次早期から地域の特性・ニーズが把握できるような科目を設定している。地域主催の「わくわくワーク」、「松阪マラソン」、「ふれあい体育祭」などのボランティアとしての参加や、近隣の中学校からの依頼で、「わくわくワーク」に松看会の協力を得て卒業生の臨床看護師とともに参加し、地域の学生が進路を考える機会をつくるなど、地域貢献につなげた。今年度も献血活動に対して多くの学生が積極的に協力することができた。さらに、多数の学生が松阪市消防団に入団しており、地域に密着した消防団活動を積極的に支援することで地域防災力の向上への功績として、消防庁長官より表彰を受けた。引き続き地域貢献、社会貢献につなげていく。</p> <p>国際交流においては、臨床英会話やフィリピン語の授業を取り入れ国際的視野を広げる科目を設定している。講師にも、国際的視野を広げられるようアプリの活用を取り入れた授業を工夫していただいております。臨地実習で活用できている。今後、多国籍の受験生の受け入れができるよう情報を収集し、検討していく。</p>
<p>VIII. 研究</p>	<p>研究において、今年度は、教員の研究活動が行えるように、研究時間や、レコーダなどの研究器材が整えられた。そして、医師会が理事会の決議に基づき必要時に倫理委員会を設置することになっているが、今後、教員の研究活動が保障されるよう、倫理規定の充実に向けて働きかけていく。昨年度より新カリキュラム修得初年度生の「多職種連携」をテーマにした研究に取り組んでいる教員は、今年度研究調査まで進めることができた。次年度は発表に向け取り組んでいく。</p>

R6年度評価項目ごとの点数

松阪看護専門学校

評価項目	R6年度 評価点数	R5年度 評価点数	R4年度 評価点数
I. 教育理念・教育目的・ 教育目標	3.0	3.0	3.0
II. 教育課程	3.0	3.0	3.0
III. 教授・学習・評価過程	3.0	3.0	3.0
IV. 経営・管理過程	2.9	2.9	2.9
V. 入学	3.0	3.0	3.0
VI. 卒業・就業・進学	3.0	3.0	2.8
VII. 地域社会・国際交流	3.0	3.0	3.0
VIII. 研究	2.6	2.6	2.3

評価点数

